



# Firebox/XTM 初期セットアップガイド



ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

2015年4月 Rev-3.2

## 目次

はじめに .....	3
第一章 デバイスの初期セットアップについて .....	4
初期セットアップの流れ .....	4
事前準備 .....	5
フィーチャーキーの取得 .....	6
ソフトウェアの取得とインストール .....	7
第二章 デバイスのファクトリー・リセット .....	9
結線 .....	10
各機種のリセット方法 .....	12
Firebox M440 のリセット .....	12
Firebox M400/500 のリセット .....	13
XTM2/3 シリーズおよび Firebox T シリーズのリセット .....	14
XTM330/5/8/10/20 シリーズのリセット .....	15
第三章 Quick Setup Wizard .....	16
WSM での接続 .....	20
第四章 Web Setup Wizard .....	21
付録:トラブルシューティング .....	30
ログイン後に“invalid credentials”と表示される .....	30
ログイン後に“Login failed. admin is currently logged in from x.x.x.x”と表示される .....	30
Web UI の表示やアクセスが不安定になる .....	31
Web Setup Wizard 実行後にデバイスにアクセスできない .....	31
おわりに .....	32

## はじめに

日頃よりウォッチガード製品をご利用いただきありがとうございます。

本書は Firebox / XTM デバイスをリセットし、初期セットアップを行なうためのガイドです。

WSM の Quick Setup Wizard による方法と、Web UI の Web Setup Wizard の両方の手順を解説しています。

本書で使用されている設定画面は、2015 年 3 月時点での最新バージョン Fireware OS v11.9 のものです。

## 第一章 デバイスの初期セットアップについて

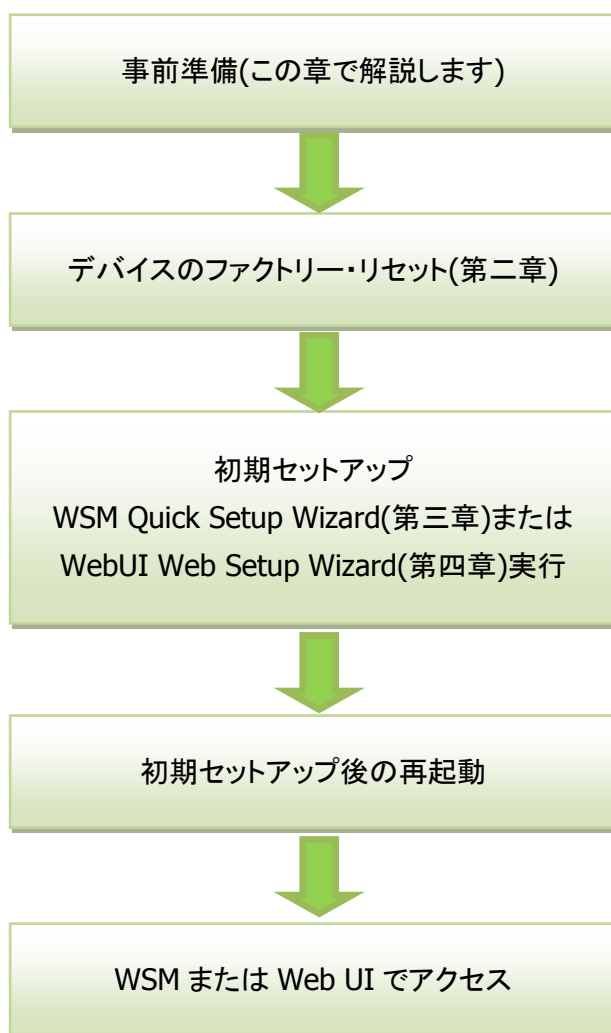
初期セットアップが必要なケースとしては、

- デバイスのパスワードを忘れた
- 機器に何らかの異常が発生した
- バージョンアップ時、クリーンインストールしてから再設定したい
- 検証フェーズ終了後、本番設置前にきれいに一から設定したい
- ある拠点からデバイスを引き上げてきて、別の拠点で使うために一から設定したい

などがあります。

### 初期セットアップの流れ

初期セットアップの流れは以下のとおりです。



※ 初期セットアップがうまくいかない、初期セットアップしたのにデバイスに接続できない場合は、  
付録:トラブルシューティング をご覧ください

## 事前準備

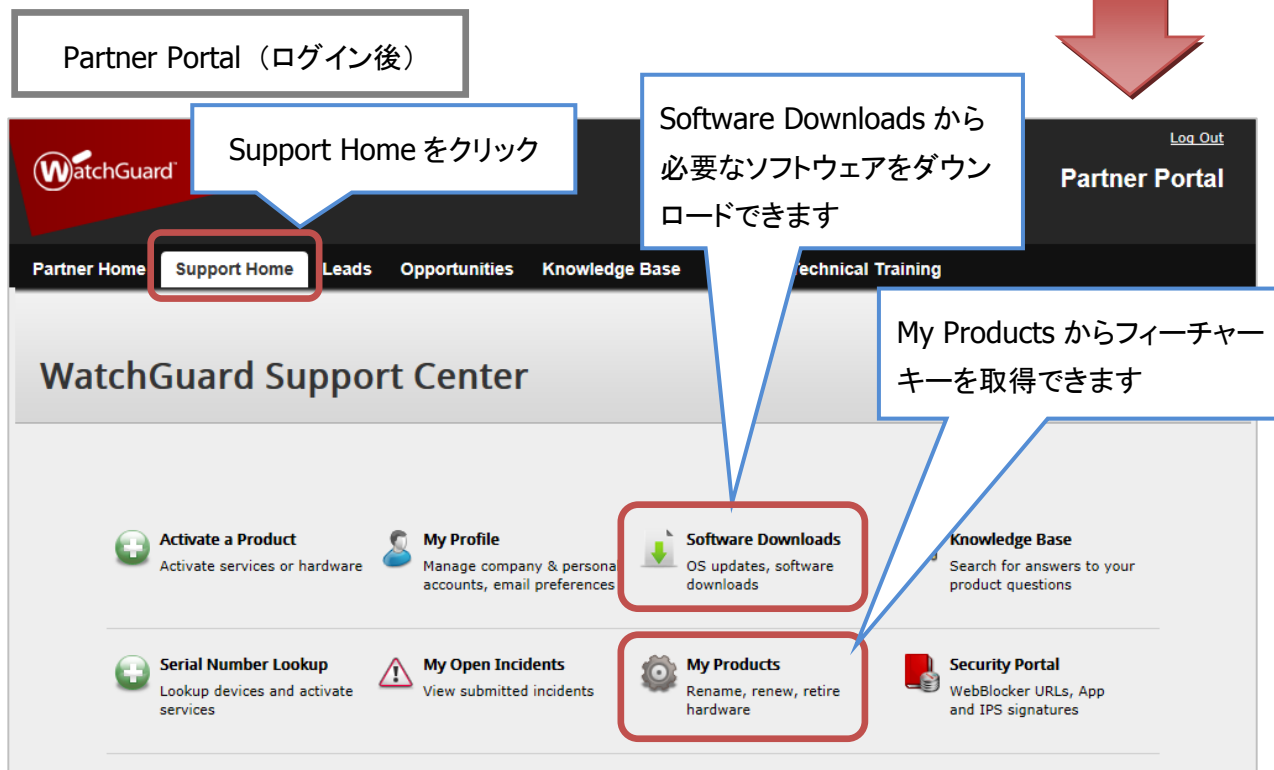
事前準備として以下の2点が必要です。

1. 初期セットアップするデバイスのフィーチャーキー(ライセンスキー)取得
2. 必要なソフトウェア WSM と Fireware のダウンロードおよびインストール

[WatchGuard\(US\)のサイト](#)から鍵マークをクリックしてログインすると、Partner Portal に移動します。



Partner Portal で Support Home タブをクリックすると、そのページからフィーチャーキーとソフトウェアが入手できます。



## フィーチャーキーの取得

Support Home の [My Products](#) をクリックすると検索フォームとデバイス一覧が表示されます。

デバイスが複数あれば、シリアル番号を元に検索します。該当機器が一覧に表示されたら、そのリンクをクリックします。

My Products

Search your activated products

80B302725-177D Search Reset

[WatchGuard® System Manager Software Licenses](#)

Click on the column header name to sort.

Serial Number	Friendly Name	LiveSecurity Expiration	Model
<a href="#">80B302725-177D</a>		09 Feb 2015	XTM 530

シリアル番号を入力し、検索します

該当機器のリンクをクリックします

デバイス情報が表示されますので、[Get your feature key](#) リンクをクリックします。

RapidDeploy

Use RapidDeploy to set up automatic configuration for your device.

RapidDeploy is not configured. Set up RapidDeploy

Services & Upgrades

Fireware® XTM Pro	Activated
Application Control	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
Gateway AntiVirus	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
Intrusion Prevention Service	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
Reputation Enabled Defense	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
spamBlocker	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
WebBlocker	Active (Expiration date: 24 Jan 2018) <a href="#">Renew</a>
Data Loss Prevention	Expired (Expiration date: 24 Feb 2015)

JPN Inventory

[Get your feature key](#)

[Rename this device](#)

[Retire this device](#)

Device Information

Model  
Firebox M400

Serial Number  
80DA028F1-0507

Manufactured with  
Fireware XTM 11.9.2

フィーチャーキーが表示されます。

```
Copy and paste everything below into a text file. Click anywhere to select all content.
Serial Number: 80DA028F10507
License ID: 80D0028F10507
Name: 03-24-2015_21:13
Model: M400
Version: 2
Feature: APP_CONTROL@Jan-24-2018
Feature: APT@Jan-25-2016:78990228303897F52131AB3759A3523622307BLDCF86672004EC8A428946372C69A485500C
21EE8548DB1783C07514E
Feature: AUTHENTICATED_USER#0
Feature: AV@Jan-24-2018
Feature: BOVPN_TUNNEL#100
Feature: FIREWALL_XTM
Features: FW_RULE#0
Feature: FW_SPEED#0
Feature: FW_USER#0
Features: IPS@Jan-24-2018
Feature: LTP_USER#150
Feature: LIVESECURITY@Jan-24-2018
Features: MOVFN_USER#150
Feature: RED@Jan-24-2018
Feature: SESSION#7600000
```

これをコピーして、テキストファイルなどで保存しておきます。

## ソフトウェアの取得とインストール

必要なソフトウェアもインストールしておきましょう。次の 2 つが必要です。

- WSM (WatchGuard System Manager) : 管理ツール
- Firewall : ファームウェア。機器のシリーズに対応したものを選択してください

### WSM

WSM は Quick Setup Wizard を使う際に必要です。

Web Setup Wizard を使う場合、WSM は必要ありませんが、Web UI には WSM と比較して若干の制限事項がありますので、すぐに使わないとしても、管理者の方は WSM をあらかじめインストールしておくことをおすすめします。

### Fireware

Fireware は Quick Setup Wizard を実行する際に、また最新バージョンにアップグレードする際に必須となります。



Fireware を事前にインストールしておかないと、Quick Setup Wizard を正常に完了できません。また Web UI からもファームウェアのアップグレードができません。

Support Home の [Software Downloads](#) をクリックすると、以下の画面になります。

右ペインの Quick Links に最新バージョンの WSM をダウンロードできるリンクがあります。

Firebox and XTM Devices をクリックすれば、シリーズ名が表示されますので、機器に合ったファームウェアをダウンロードできます。

The screenshot shows the 'Software Downloads' page. At the top, it says 'Looking for the latest OS and management software? Choose your WatchGuard device to see all its available downloads.' Below this is a search section with a dropdown menu for 'Select a device...' and a 'Go' button. A callout box points to the 'Firebox and XTM Devices' link in the device list, with the text 'Firebox and XTM Devices をクリック'. To the right, there is a 'Welcome!' section with 'Latest Software Releases' and a 'Quick Links' section. A callout box points to the 'WSM v11.9.5' link in the Quick Links section, with the text '最新の WSM がダウンロードできます'. Another callout box points to the 'Firebox and XTM Devices' link in the device list, with the text '機器のシリーズに合ったファームウェアをダウンロードします'. The device list includes: Dimension, Firebox T10, XTM 21, 22, and 23, XTM 25 and 26, XTM 33, XTM 330, XTM 5 Series, Firebox M400 and M500, Firebox M440, XTM 8 Series, XTM 800, 1500 and 2500 Series, XTM 1050 Series, XTM 2050 Series, XTMv Hyper-V, XTMv VMware, and Beta. A '<< Show All Devices' link is at the bottom of the list.

ソフトウェアがダウンロードできたら、WSM のインストールを行います。

インストーラーはすべてデフォルトで進めます。

次に Fireware もインストールします。こちらのインストールウィザードもすべてデフォルトで進めてください。

以上で準備は完了です。



## 第二章 デバイスのファクトリー・リセット

ファクトリー・リセットとは、XTM を工場出荷時の既定の設定に戻す手段です。リセットして起動すると XTM は「セーフモード」というモードで動作します。リセット後にはデバイスの 1 番ポートと結線し、セットアップウィザードを実行できます。

リセット後のデフォルト設定は次のとおりです。

External(0 番ポート)の IP アドレス	DHCP
Trusted(1 番ポート)の IP アドレス	10.0.1.1

この章では、まず、初期セットアップの際の結線方法について解説します。

次いで機種ごとのファクトリー・リセット方法を解説します。

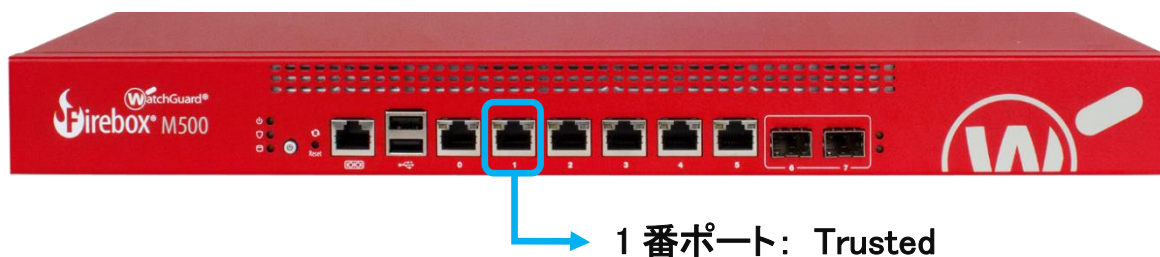
## 結線

まずは機器のシリーズごとの 1 番ポートの位置を示します。どのモデルも 1 番ポートがデフォルトで Trusted(信頼済みネットワーク)となりますので、PC とデバイスの 1 番ポートを LAN ケーブルで接続しておきます。

### Firebox M440



### Firebox M シリーズ



### Firebox T シリーズ, XTM2/3 シリーズ



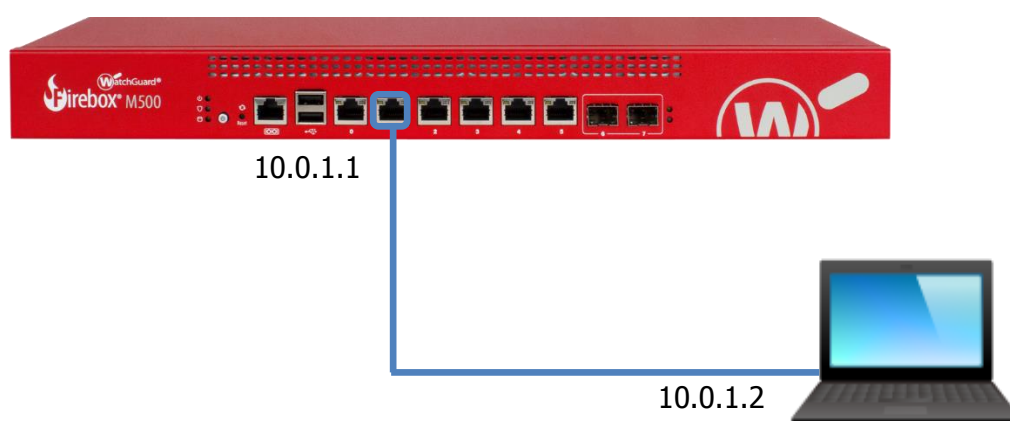
### XTM XTM330/5/8/10/20 シリーズ



設定する PC 側の設定は Trusted のネットワークに合わせ、以下のように固定 IP アドレスを設定しておいでください。

IP アドレス	10.0.1.2
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	10.0.1.1

PC とデバイスの 1 番ポートを接続します。



リセット後、PC 側から 10.0.1.1 に ping コマンドを実行して疎通を確認できれば、初期セットアップの準備は完了です。



ping コマンドで応答があっても起動中の場合もありますので、初期セットアップは ping の疎通を確認できた後、1~2 分経ってから行ってください。

リセット手順は機種によって違いがあります。

次にシリーズごとのリセット方法を解説します。

## 各機種のリセット方法

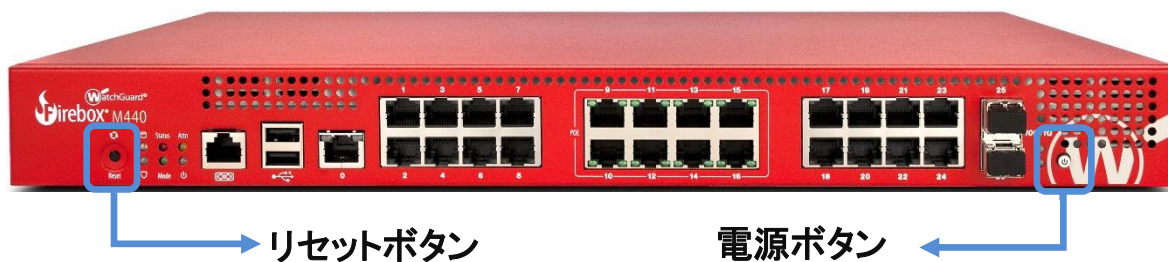
### Firebox M440 のリセット

1. 本体背面の電源スイッチを入れ、電源を投入します



2. デバイス前面の電源ボタンを 3 秒間長押しして、一旦電源を切ります
3. デバイス前面のリセットボタンを押した状態で、電源ボタンを短く押して電源を入れます

#### M440 の電源ボタンとリセットボタンの位置



4. リセットボタンを押し続け、Attn インジケータが点滅しはじめたら手を離します



5. Attn インジケータが点滅から点灯に変わるまで待ちます  
Attn インジケータが点灯になったらリセットされたことを意味します

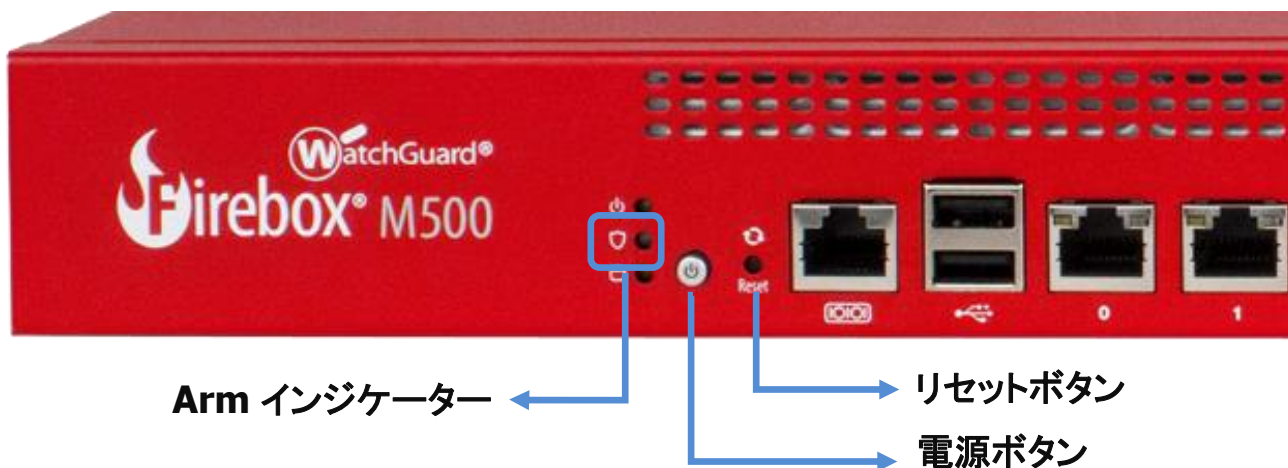
## Firebox M400/500 のリセット

1. 本体背面の電源スイッチを入れ、電源を投入します



2. デバイス前面の電源ボタンを3秒間長押しして、一旦電源を切ります
3. デバイス前面のリセットボタンを押した状態で、電源ボタンを短く押して電源を入れます

### M440 の電源ボタンとリセットボタンの位置



4. Arm インジケータが赤い間、リセットボタンを押し続けます
5. Arm インジケータがゆっくり緑色に点滅している間も押し続けます
6. 緑色の点滅が早くなったら手を離し、点滅が赤になるまで待ちます  
Arm インジケータが赤の点滅になったらリセットされたことを意味します。

## XTM2/3 シリーズおよび Firebox T シリーズのリセット

### 1. 電源を投入します。

XTM2/3 シリーズでは機器の背面、右端の Reset ボタンを押しながら、AC アダプタの電源を挿します。Reset ボタンは起動中、ずっと押したままにします。



リセットボタンを押しながら  
AC アダプタを挿します

Firebox T シリーズは電源スイッチがあるので、AC アダプタを挿し、Reset ボタンを押しながら電源スイッチを入れます。



AC アダプタを挿し、リセットボ  
タンを押しながら電源スイッチ  
を入れます

### 2. Attn インジケータが点滅し始めたらリセットボタンから手を離します。



**Attn** インジケータ

点滅は 30 秒から 60 秒続きます(デバイスによっては点滅しないものもあります)。

### 3. Attn インジケータが点滅しない場合は、点灯するまでリセットボタンを押し続けます。

点灯したらリセットボタンを離します。

### 4. Web Setup Wizard で設定する場合は再起動が必要なので、電源を入れ直します(これらのシリーズのみ再起動が必要です)



## XTM330/5/8/10/20 シリーズのリセット

### 1. 電源の投入

フロントパネル 右方、液晶パネルの下に上下左右の矢印ボタンがあります。この中の下向き▼のボタンを押しながら、背面の電源スイッチを ON にします。



▶ ▼ ボタンを押しながら

背面の電源を投入



### 2. フロントパネルの LCD ディスプレイに Safe Mode Starting... と表示されて 5 秒ほどしたら離します

```
Safe Mode  
Starting...
```

しばらくすると社名が表示されます。

```
WatchGuard  
Technologies
```

### 3. 以下のように Safe と表示がされたらセーフモードで起動したことを意味します。

```
Up 0 day 00:00 Safe  
Cfg 3 day 19:37
```

```
XTM 330 Safe  
Load 0.68 0.75 0.3
```

### 4. Web Setup Wizard で設定する場合は再起動が必要なので、背面の電源スイッチを長押しして一旦電源を切り、再度電源を入れ直します

### 第三章 Quick Setup Wizard

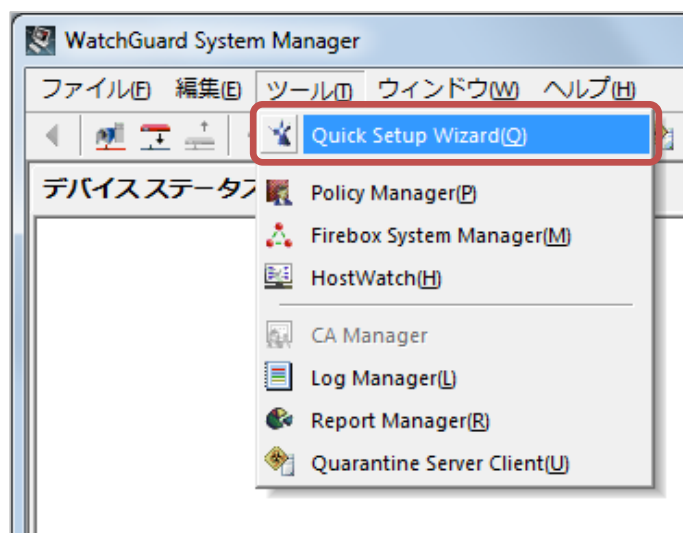
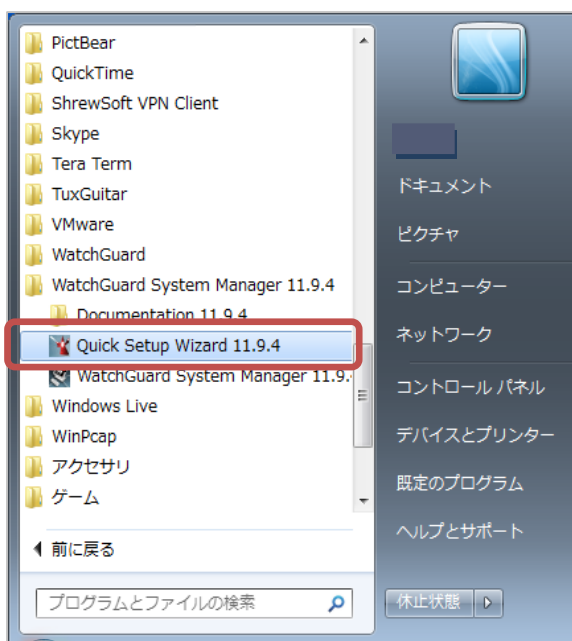
この章では、WSM のツール群に含まれる Quick Setup Wizard で初期セットアップを行なう方法を説明します。



Quick Setup Wizard を正常に完了するために、必ず Firewall(ファームウェア)を事前にインストールしておいてください。(第一章の「事前準備」を参照)

Quick Setup Wizard の起動の方法は 2 通りあります。

1. スタートメニューから WatchGuard System Manager 11.x.x – Quick Setup Wizard 11.x.x をクリック
2. WatchGuard System Manager が起動していれば、ツールメニューから Quick Setup Wizard をクリック



ウィザードが始まります。ようこそ、の画面は次へ。



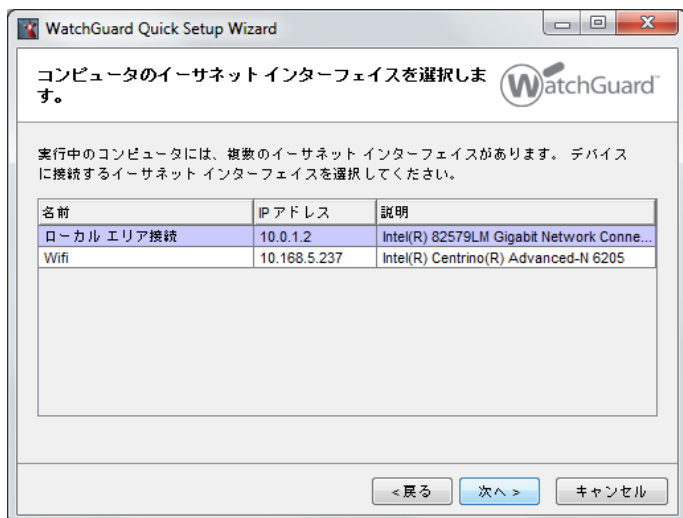


「はい、デバイスは認識される準備ができています」を選び次へ。



※他のオプションは機種の種類やセーフモード起動の方法を指示してくれる、より詳細なウィザードになります

インターフェイスが複数あるとリストが表示されます。XTM と接続しているインターフェイスを選んで次へ。



デバイスが発見されたら次へ。



デバイス名を任意で入力します。

The screenshot shows the 'WatchGuard Quick Setup Wizard' window with the title 'デバイス情報の追加' (Add Device Information). The WatchGuard logo is in the top right. The main text explains that device connection information is used to identify the device when managing multiple devices. There are three input fields: 'デバイス名' (Device Name) with 'XTM25-W\_Tokyo-Branch', 'デバイスの場所' (Device Location) with 'Tokyo Nakameguro', and '連絡先' (Contact) with 'support@domain.name'. A checked checkbox 'デバイスフィードバックを WatchGuard に送信する' (Send device feedback to WatchGuard) is present. Below it, text explains that feedback helps improve products and features, but it does not include user or company data. A link '詳細 デバイスフィードバック' (Details Device Feedback) is provided. At the bottom are buttons for '<戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

デバイスの外部インターフェイス、内部インターフェイス、DNS、Management Server、リモート管理 の画面ではデフォルトのまま次へ進みます。

デバイスのソフトウェアをアクティベートします、の画面では、あらかじめ取得しておいたフィーチャーキーをテキストボックスにコピー&ペーストして有効化します。もしくは参照ボタンをクリックし、保存しておいたテキスト形式のフィーチャーキーを指定して読み込みます。

The screenshot shows the 'WatchGuard Quick Setup Wizard' window with the title 'デバイスのソフトウェアをアクティベートします。' (Activate Device Software). The WatchGuard logo is in the top right. The main text explains that device activation requires a feature key, which can be pasted into the field or downloaded from a file using the '参照...' (Reference...) button. A text area contains the following information: 'Serial Number: 70A705EE6FDC8', 'License ID: 70A705EE6FDC8', 'Name: 06-16-2014\_00:29', 'Model: XTM26-W', 'Version: 2', and 'Feature: APP\_CONTROL@Jul-31-2014'. Below the text area is an information icon and the text '機能キーがない場合は、LiveSecurity Web サイトを参照して入手します。' (If you do not have a feature key, refer to the LiveSecurity Web site to obtain it). A link '詳細情報 機能キー' (Detailed Information Feature Key) is provided. At the bottom are buttons for '<戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

次にパスワードを設定します。8文字以上が要求されます。ステータスパスフレーズと構成パスフレーズに同一のものは設定できません。

ステータスパスフレーズはユーザー権限で、設定の閲覧や通信のリアルタイムモニタリングに使用します。構成パスフレーズは管理者用で、主に設定の保存時に使用します。



The screenshot shows the 'WatchGuard Quick Setup Wizard' window. The title bar reads 'WatchGuard Quick Setup Wizard'. The main heading is 'デバイス用のパスフレーズを作成します。' (Create passwords for the device). Below this, there is a sub-heading: 'デバイス用の新しいステータスおよび構成のパスフレーズを入力します。パスフレーズを再入力して、正しく入力されているかを確認します。' (Enter new status and configuration passwords for the device. Re-enter the passwords to confirm they are entered correctly.)

There are four password input fields:

- ステータス パスフレーズ: (読み取り専用アクセス) - Status Password: (Read-only access)
- パスフレーズの再入力: - Password re-entry
- 構成 パスフレーズ: (読み書きアクセス) - Configuration Password: (Read-write access)
- パスフレーズの再入力: - Configuration Password re-entry

At the bottom, there is an information icon and text: 'パスフレーズには、最低 8 文字を使用する必要があります。' (Passwords must be at least 8 characters long.) and a link: '次の項目の作成方法の詳細 [強力なパスフレーズ](#)。' (For more details on creating passwords, see [Strong Passwords](#).)

Navigation buttons at the bottom are '< 戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

「デバイスの構成を確認します」画面で設定のサマリーが表示されたら、そのまま次へ。

「ウィザードがデバイスを構成しています」の画面の後に、正常に完了しましたの画面になれば OK です。



The screenshot shows the 'WatchGuard Quick Setup Wizard' window at the completion stage. The title bar reads 'WatchGuard Quick Setup Wizard'. The main heading is 'Quick Setup Wizard 正常に完了しました。' (Quick Setup Wizard Completed Successfully). Below this, there is a sub-heading: 'デバイスを再起動中です。再起動が終わったら、Fireware XTM v11.9 はこのベーシックセキュリティポリシーでデバイスにインストールされます:' (Restarting the device. When the restart is complete, Fireware XTM v11.9 will be installed on the device with this basic security policy:)

- ルート指定済みモードで動作する (Operates in root-authorized mode)
- 信頼済みインターフェイスからの管理が可能 (Management possible from trusted interfaces)
- 送信トラフィックを許可する (Permits outgoing traffic)
- すべての受信トラフィックをブロックする (Blocks all incoming traffic)

Below the list, it says: 'デバイス構成のコピーが次の場所に保存されました: C:\Users\USERNAME\Documents\My' (A copy of the device configuration has been saved to the following location: C:\Users\USERNAME\Documents\My)

At the bottom, there is a checkbox: '別のデバイスの Quick Setup Wizard を起動するには、このチェックボックスを選択し完了をクリックします。' (To start the Quick Setup Wizard on another device, select this checkbox and click Complete.)

Navigation buttons at the bottom are '< 戻る' (Back), '完了' (Complete), and 'キャンセル' (Cancel).

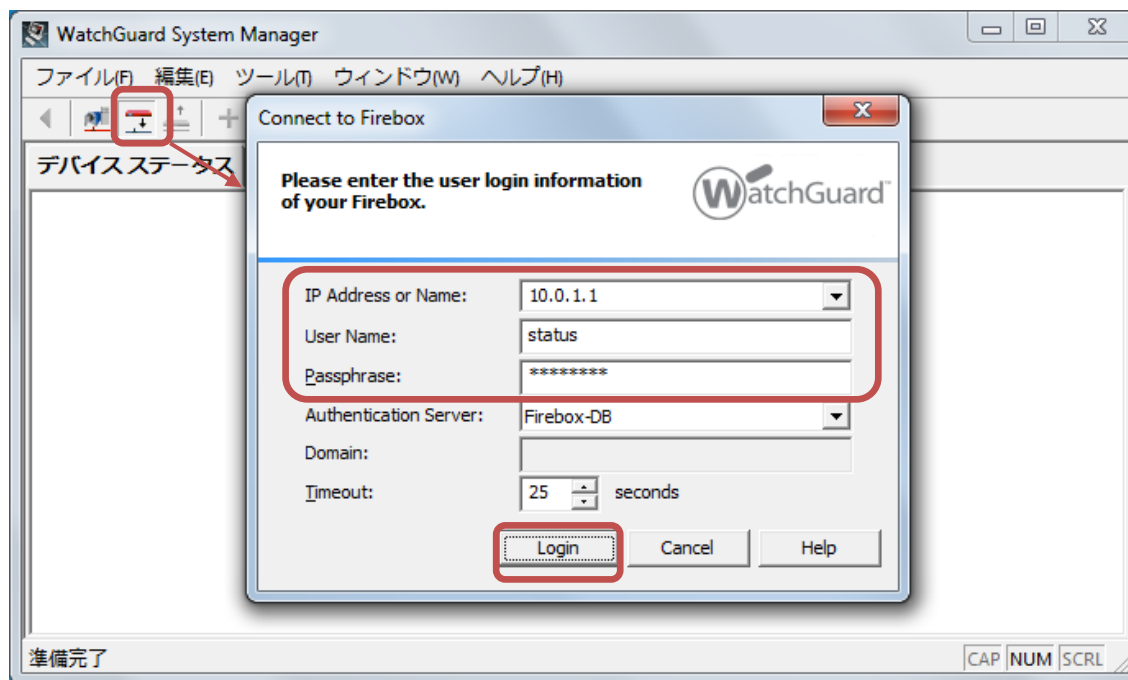
このあと自動的に再起動がかかり、通常モードで起動します。

## WSM での接続

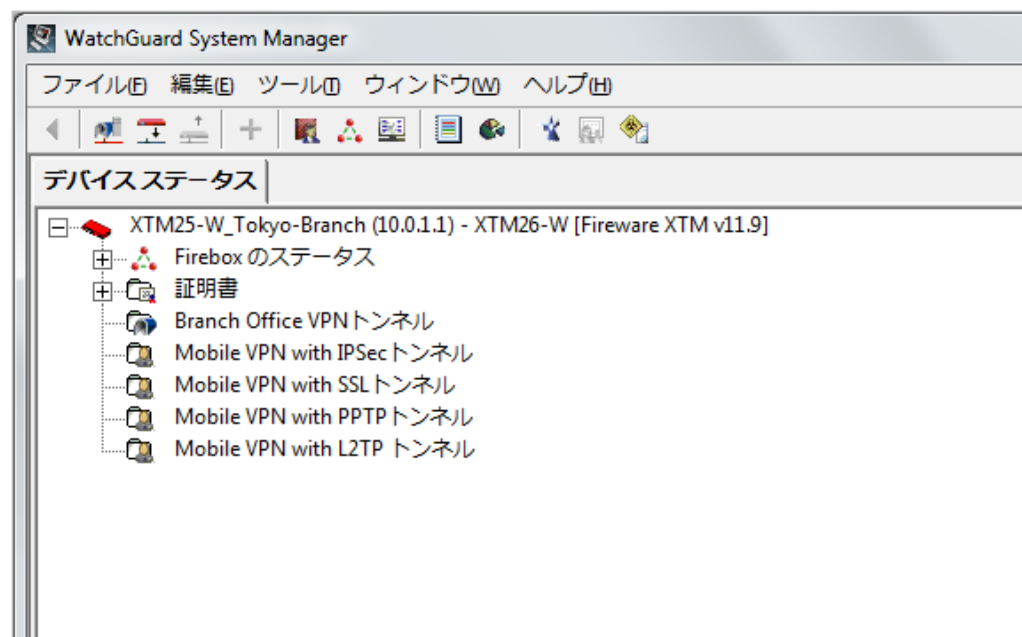
Quick Setup Wizard が完了しデバイスが再起動したら、WSM で接続することができます。

ツールバーのデバイスに接続アイコンをクリックすると接続ダイアログが表示されます。

IP Address は 1 番ポートの IP アドレス(10.0.1.1)、User Name は status、Passphrase は Wizard 中に設定したパスワードを入力し、Login ボタンをクリックします。



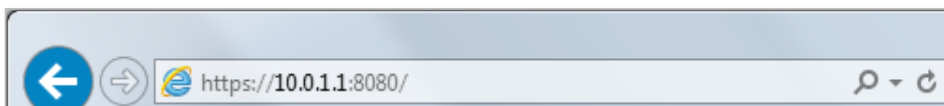
接続が成功すると、デバイスが表示されます。



## 第四章 Web Setup Wizard

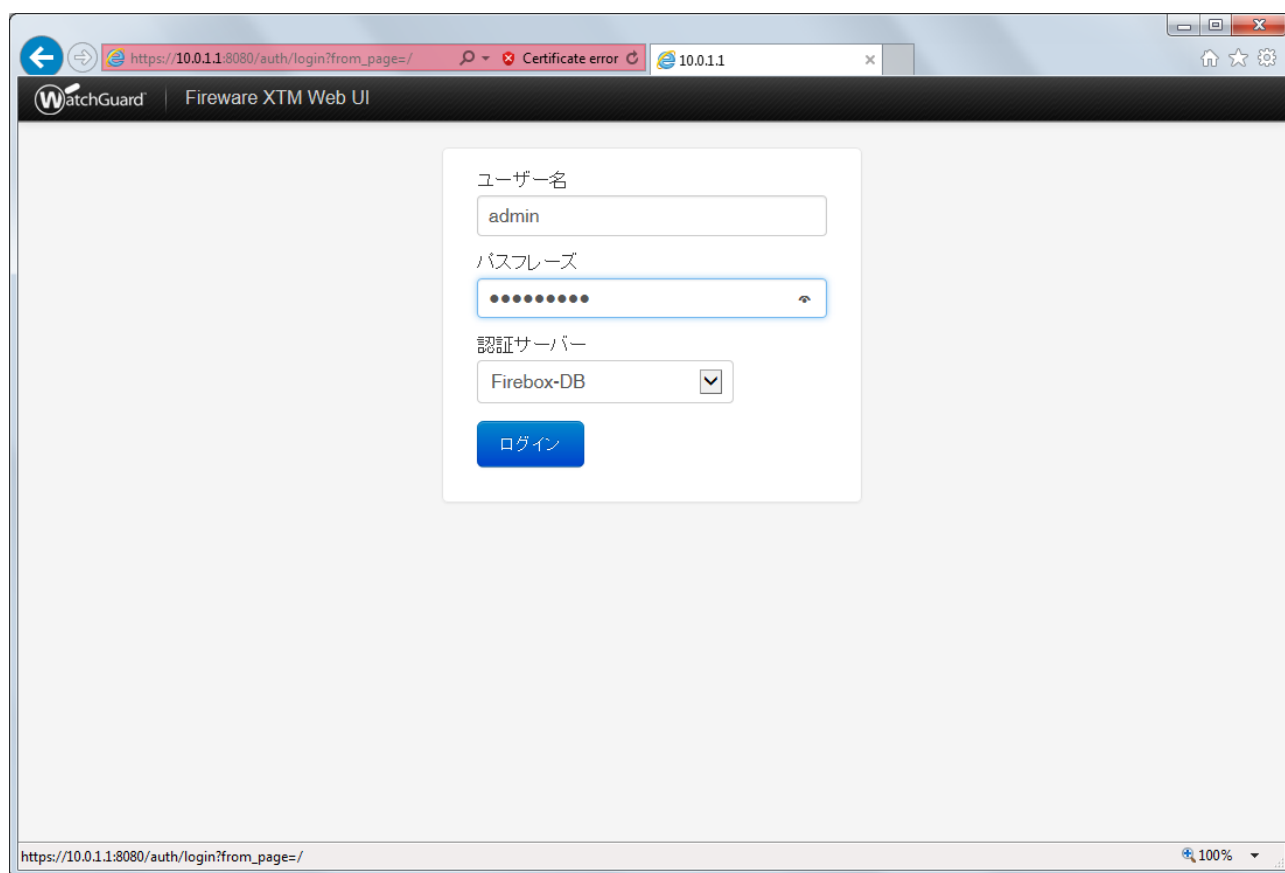
この章では、Web ブラウザだけで初期セットアップを行なえる、Web Setup Wizard の手順について解説します。

設定する PC とリセットしたデバイスの 1 番ポートを結線し、ブラウザのアドレスバーに <https://10.0.1.1:8080> を入力し、アクセスします。



証明書のセキュリティ警告が出てそのまま続行します。

するとログイン画面が表示されますのでユーザー名に「admin」、パスワードに「readwrite」を入力します。



Wizard が始まります。初期設定が目的なので「新しいデバイス構成の作成」にチェックして次へ。

Web Setup Wizard へようこそ

**WatchGuard**

このウィザードは WatchGuard XTM デバイスを設定するのに役立ちます。

Select a configuration type:

新しいデバイスの構成の作成

バックアップ イメージの復元

[その他の情報](#) [次へ](#)

使用許諾契約の条項に同意して次へ。

使用許諾契約を読む

In accordance with the substantive laws of Washington excluding the 1900 United National Convention on Contracts for the International Sale of Goods, as amended This is the entire AGREEMENT between us relating to the SOFTWARE PRODUCT, and supersedes any prior purchase order, communications, advertising or representations concerning the SOFTWARE PRODUCT AND BY USING THE SOFTWARE PRODUCT YOU AGREE TO THESE TERMS. IF THE SOFTWARE PRODUCT IS BEING USED BY AN ENTITY, THE INDIVIDUAL INDICATING AGREEMENT TO THESE TERMS REPRESENTS AND WARRANTS THAT (A) SUCH INDIVIDUAL IS DULY AUTHORIZED TO ACCEPT THIS AGREEMENT ON BEHALF OF THE ENTITY AND TO BIND THE ENTITY TO THE TERMS OF THIS AGREEMENT; (B) THE ENTITY HAS THE FULL POWER, CORPORATE OR OTHERWISE, TO ENTER INTO THIS AGREEMENT AND PERFORM ITS OBLIGATIONS UNDER THIS AGREEMENT AND; (C) THIS AGREEMENT AND THE PERFORMANCE OF THE ENTITY'S OBLIGATIONS UNDER THIS AGREEMENT DO NOT VIOLATE ANY THIRD-PARTY AGREEMENT TO WHICH THE ENTITY IS A PARTY. No change or modification of this AGREEMENT will be valid unless it is in writing

使用許諾契約に同意します

[戻る](#) [次へ](#)

以降、各種ネットワークやポリシーをできる画面になりますが、すべての設定項目は初期セットアップ後に変更可能ですので、設定が決まっていなくてもデフォルトのまま進んでいただいて構いません

外部インターフェイスは DHCP(デフォルトのまま)を選択し次へ。

### XTM デバイスの 外部インターフェイスの構成

XTM デバイスが外部 IP アドレスを設定する際に使用する方法を選択してください:

DHCP  
 PPPoE  
 静的

その他の情報 戻る 次へ

次へ。

### DHCP 用外部インターフェイスの構成

手動で IP アドレスを割り当て、そのアドレスを XTM デバイスに設定するためだけに DHCP を使用する場合には、**IP アドレスの使用ラジオ** ボタンを選択して、隣のフィールドに IP アドレスを入力します。**クライアント** および**ホスト名**フィールドの入力は任意です。

IP アドレスの自動取得  
 IP アドレスの使用

リース時間

クライアント

ホスト名

その他の情報 戻る 次へ

DNS サーバーの指定です。後から設定できますが、プロバイダもしくはシステム部門指定の IP アドレスが決まっていたら入力して次へ。

### DNS サーバーおよび WINS サーバーの構成

Fireware XTM の機能の中には、Windows Internet Name Server (WINS) および Domain Name System (DNS) のサーバーの IP アドレスを要求するものがあります。これらのサーバーへのアクセスは、Firebox の信頼済みインターフェイスから行える必要があります。次の目的で使用されます: IPSec VPNI に対して IP アドレスへの名前解決を提供し、spamBlocker、Gateway AV、および IPS 機能が正しく動作するように、XTM デバイスはここに示す DNS サーバーを使用します。WINS の入力内容および DNS の入力内容は、信頼済みネットワークまたは任意ネットワーク上の DHCP クライアントや、Mobile VPN ユーザーが DNS クエリを解決するために使用されません。

ドメイン名

DNS サーバー

WINS サーバー

[その他の情報](#)

信頼済みインターフェイス(現在接続しているポート)の設定です。

DHCP を有効にしてよければこのまま次へ。開始/終了 IP を変更しても構いません。

DHCP を有効にたくない場合はチェックを外して次へ。

### 信頼済みインターフェイスの構成

信頼済みインターフェイス用に、内部のプライベート ネットワークから利用可能な IP アドレスを入力します。この IP アドレスは信頼済みインターフェイスとなります。

IP アドレス  /

このインターフェイス上で DHCP サーバーを有効にする

開始 IP

終了 IP

信頼済みインターフェイスの IP アドレスを変更する場合、Fireware XTM Web UI に接続するために、ブラウザアドレスバー内で新しい IP アドレスを使用する必要があります。例えば、信頼済みインターフェイス IP アドレスを 172.16.0.1 に変更する場合、接続するためには <https://172.16.0.1:8080> を使用する必要があります。また、新しい信頼済みネットワーク IP サブネット範囲に入るように、コンピュータの IP アドレスも変更する必要があります。

[その他の情報](#)



パスワードの設定です。status ユーザーは設定の読み取り専用のアカウント、admin ユーザーは設定が保存できる管理者アカウントです。それぞれを 8 文字以上の英数字で設定します。  
status と admin は同じパスワードを使用することはできません。

### デバイス用のパスワードの作成

デバイスには 2 つのビルトイン ユーザー アカウントがあります：

**管理者**は読み書き権限を持ちます。  
ステータスは読み取りのみの権限を持ちます。

それぞれのアカウントで使用するパスワードを入力します。  
それぞれのパスワードは 8 ～ 32 文字を含む必要があります。

ユーザー名	ステータス (読み取りのみ)
パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認	<input type="password"/>
ユーザー名	管理者 (読み書き)
パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認	<input type="password"/>

[その他の情報](#) 戻る 次へ

リモート管理の有効化はしないで次へ。(後からポリシーの編集画面で変更できます)

### リモート管理を有効にする

このデバイスのリモートコンピュータからの管理を許可する

リモートホスト IP アドレス

Web Setup Wizard が自動的に"WatchGuard"と呼ばれるポリシーを作成します。このポリシーによって、信頼済みネットワークまたは任意ネットワーク上の任意のコンピュータから、XTM デバイスに接続して管理することが許可されます。離れた場所(信頼済みや任意のネットワーク上にない、あらゆるコンピュータ)から XTM デバイスを管理する場合は、ここにリモート IP アドレスを追加してポリシーを変更することができます。

[その他の情報](#) 戻る 次へ

デバイス名を入力し次へ。

### デバイスの連絡先情報の追加

---

**連絡先情報**

デバイスの連絡先情報は、複数のデバイスを管理する場合に、このデバイスを識別するのに役立ちます。

デバイス名

デバイスの場所

担当者

**デバイスフィードバック**

デバイスフィードバックは WatchGuard が製品および機能を改善するのに役立ちます。デバイスが WatchGuard に送信するフィードバックは、どのようにデバイスが使用されるかについての情報が含まれますが、お客様の会社または会社データを特定する情報は含まれません。

デバイスフィードバックを WatchGuard に送信

その他の情報

タイムゾーンは「(GMT+09:00)大阪、札幌、東京」を選択して次へ。

### タイムゾーンの設定

---

XTM デバイスが設置された地域のタイムゾーンを選択します。タイムゾーン設定は、ログファイルや、LogViewer、WatchGuard Reports、WebBlocker などのその他のツールに表示される日付・時間を制御します。

タイムゾーン

その他の情報

オンラインライセンス登録はスキップしてください。

※ 設定済みの機器を再セットアップする際には、ライセンスが保持されていることがあり、その場合ライセンス登録やフィーチャーキーの入力の画面は表示されず、セットアップが完了します

### オンラインライセンス登録

構成は完了です。XTM デバイスの外部インターフェイスがインターネットに接続されている場合、ウィザードは自動的に WatchGuard のウェブサイト上でデバイスを起動して、デバイスのすべての機能を有効にする機能キーをダウンロードおよびインストールします。このデバイスを識別するには、わかりやすい名前を入力します。次に、WatchGuard Web サイトのログインに使用するアカウント認証情報を入力します。

わかりやすい名前

シリアル番号

ユーザー名

パスワード

WatchGuard は初めてお使いですか? [アカウントを作成するにはここをクリックしてください](#)

[その他の情報](#)

有効化の画面になります。機能キーを追加 を選んで次へ。

### 有効化

デバイスのすべての機能を有効にする機能キーをアップロードしますか? このウィザードでこれを行うには、このデバイスを有効化した後、ローカルファイルに WatchGuard アカウントから機能キーをダウンロードしておく必要があります。

機能キーを追加

この手順をスキップ

[その他の情報](#)

あらかじめ取得しておいた機能キーをテキストボックスに貼り付けて、次へ。

機能キーを追加

下記のボックスに、使用する機能キーを貼り付けてください。

```
Feature: FW_RULE#0
Feature: FW_SPEED#200
Feature: FW_USERS#0
Feature: IPS@Feb-10-2018
Feature: L2TP_USER#5
Feature: LIVESECURITY@Feb-10-2018
Feature: MUVPN_USER#5
Feature: RED@Feb-10-2018
Feature: SESSION#15000
Feature: SPAMBLOCKER@Feb-10-2018;UC17Q63WEU2Q2UGD54HB
Feature: SSLVPN_USER#5
Feature: VLAN#10
Feature: VPN_SPEED#30
Feature: WEBBLOCKER@Feb-10-2018
Expiration: never
```

その他の情報

戻る 次へ

最後に設定のサマリーが表示されますので、内容を確認して次へ。

概要

下記の構成を確認します。

有効化	成功
機能キー	手動で適用
外部インターフェイス	DHCP の使用 - IP アドレスの自動取得
信頼済みインターフェイス	10.0.1.1/24 - DHCP の使用
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

これらの設定を適用するには、[次へ] をクリックします

戻る 次へ

設定が保存されます。

設定の保存

セットアップ完了が表示されます。

設定は完了です。

デバイスの基本構成が完了しました。これにより、アウトバウンド TCP、UDP、および ping トラフィックが許可され、要求していないすべての外部トラフィックがブロックされるようになります。

**デバイスを更新**  
デバイスを最新の Fireware XTM OS にアップグレードすることを推奨します。アップデートを [WatchGuard サポートセンター](#) でチェックしてください

**デバイスの管理**  
WatchGuard Web UI はネットワーク上の任意のブラウザからデバイスを設定し管理することを可能にします。WatchGuard System Manager は、Windows ベースの管理ツールのセットで、これによって、クラスタ、詳細なレポートや、他のエンタープライズレベルの機能にアクセスすることができます。

Web UI を起動      WatchGuard System Manager をダウンロードする  
<https://10.0.1.1:8080>    <https://www.watchguard.com/archive/softwarecenter.asp>

自動的に再起動がかかり、設定した内容で起動します。3~4 分お待ちください。

再度 <https://10.0.1.1:8080> にアクセスし、ウィザードで設定したパスワードでログインしてください。

以下のように Web UI のダッシュボードが表示されれば問題なく設定できています。

WatchGuard Fireware XTM Web UI      ユーザー: admin | ヘルプ | ログアウト

ダッシュボード  
フロントパネル  
サブスクリプションサービス  
FireWatch  
インターフェイス  
トラフィックモニタ  
ゲートウェイワイヤレスコントローラ  
システム ステータス  
ネットワーク  
ファイアウォール  
サブスクリプションサービス  
認証  
VPN  
システム

フロントパネル

トップクライアント

名前	レート	バイト	ヒット
10.0.1.2	6 Kbps	1 KB	1

上位宛先

名前	レート	バイト	ヒット
10.0.1.1	6 Kbps	1 KB	1

上位サービス

名前	レート	バイト	ヒット
WatchGuard Web UI	6 Kbps	1 KB	1

送信先ポート

名前	レート	バイト	ヒット
8080	6 Kbps	1 KB	1

システム

名前 XTM\_2\_Series-W  
モデル XTM26-W  
バージョン 11.9.4.B463675  
シリアル番号 70A705EE6FDC8  
システム時間 14:19 Asia/Tokyo  
システム日付 2015-01-19  
稼働時間 0 days 01:05  
Log Server Disabled

再起動

過去 20 分

外部帯域幅

16 Kbps  
12 Kbps  
8 Kbps  
4 Kbps  
0 Kbps

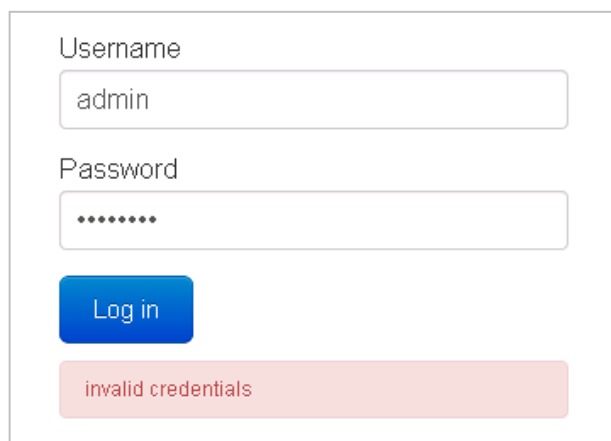
20 分前      現在

初期セットアップは以上で完了です。

## 付録 : トラブルシューティング

エラー表示やアクセスできないなどの症状がある場合に参考にしてください。

### ログイン後に“invalid credentials”と表示される

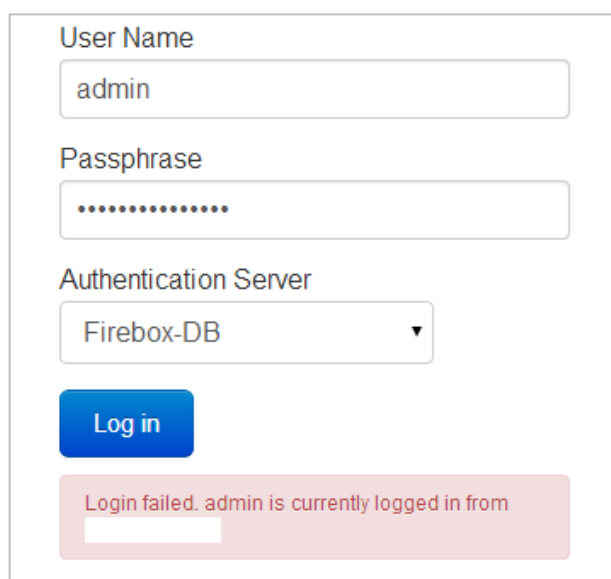


A screenshot of a login form. It has two input fields: 'Username' with the text 'admin' and 'Password' with masked characters '.....'. Below the fields is a blue 'Log in' button. At the bottom, a red error message box displays the text 'invalid credentials'.

原因と対策:

1. Web ブラウザにキャッシュ/クッキー情報が残っている可能性があります  
⇒Web ブラウザを再起動して接続し直す
2. Firebox/XTM デバイス内部のプロセスが正常に起動していない可能性があります  
⇒デバイスの再起動
3. 初期セットアップに失敗している可能性があります  
⇒再度手順に沿って初期セットアップを実施

### ログイン後に“Login failed. admin is currently logged in from x.x.x.x”と表示される



A screenshot of a login form. It has three input fields: 'User Name' with the text 'admin', 'Passphrase' with masked characters '.....', and 'Authentication Server' with a dropdown menu showing 'Firebox-DB'. Below the fields is a blue 'Log in' button. At the bottom, a red error message box displays the text 'Login failed. admin is currently logged in from' followed by a small white box containing a redacted IP address.

原因と対策:

1. Firebox/XTM デバイスに admin のログインキャッシュが残っている可能性があります  
⇒デバイスの再起動、もしくはタイムアウト時間(デフォルトで 15 分)待ってから再度アクセスする  
(左メニュー 認証 - 設定 から、管理セッションの「アイドル タイムアウト」で調整可能)

---

## Web UI の表示やアクセスが不安定になる

原因と対策:

1. Web ブラウザがデバイスから正常にスクリプトなどをダウンロードできていない可能性があります  
⇒Web ブラウザを再起動、または別のブラウザを使用する

---

## Web Setup Wizard 実行後にデバイスにアクセスできない

原因と対策:

1. 初期セットアップが失敗している可能性があります  
⇒Web Setup Wizard ではなく、WSM の Quick Setup Wizard を実行する  
※ XTM2x/33 および T10 については、リセット後再起動しないで Quick Setup Wizard を実行してください

## おわりに

WatchGuard Firebox/XTM 初期セットアップガイドをご参照いただきありがとうございました。

初期セットアップは、Firebox/XTM デバイスを使いこなす管理者にとっても、デバイスの設定を何度も試行する初学者にとっても必須の作業です。繰り返し本書を参照し、初期セットアップの手順に慣れていただければと思います。

初期セットアップ後の諸々の設定については、以下のガイドをご活用ください。実際の設定画面を豊富に掲載し、分かりやすく、基礎から大規模環境での設定方法を解説しています。

- Web UI ガイド
- WSM 基本設定ガイド
- WSM 詳細設定ガイド

また、以下の製品ヘルプ ドキュメントにも、設定方法についての詳細な情報が掲載されています。

- Fireware XTM WSM ヘルプシステム (日本語の翻訳版)  
[http://www.watchguard.com/help/docs/wsm/11\\_XTM/ja-JP/index.html](http://www.watchguard.com/help/docs/wsm/11_XTM/ja-JP/index.html)
- Fireware XTM WSM Help (英語の最新版)  
[http://www.watchguard.com/help/docs/wsm/XTM\\_11/en-US/index.html](http://www.watchguard.com/help/docs/wsm/XTM_11/en-US/index.html)

今後も WatchGuard Firebox/XTM が、御社のセキュリティの要としてお役に立てれば幸いです。